



GOVERNOR'S Monthly Letter

国際ロータリー 第2580地区 ガバナー月信

February 2021
No. 8

2

ガバナー 野生司 義光

渋沢栄一の職業奉仕論を田中一弘教授が読み解く

財務省は図柄を一新した新一万円札 2024 年度の上半期に発行する、と発表しました。その表面に描かれる肖像は渋沢栄一です。

渋沢栄一が東京商工会議所の初代会頭として、日本の経済界の先端に立った人の職業奉仕論としてここに紹介するものです。

田中一弘氏（一橋大学教授）がその渋沢栄一の職業奉仕論を吉田建二地区ガバナー（2013～2014）の時代に、梶原徳二地区職業奉仕委員長が主催した講演会の内容をリライトしたものです。

渋沢栄一の職業奉仕論とロータリーの「Service Above Self（超我の奉仕）」と考えが同じであることがここに論じられております。

興味深い論文ですので、是非、お読みください。

2013～2014 年度 地区職業奉仕委員会

カウンセラー	多田 宏	（東京神田 RC）
委員長	梶原 徳二	（東京小石川 RC）
副委員長	長沼 一雄	（東京浅草中央 RC）
委員	堀部 正行	（東京練馬中央 RC）
委員	海内 栄一	（東京浅草中央 RC）
委員	鈴木 富士	（東京東江戸川 RC）
委員	池田 秀昭	（東京保谷 RC）
委員	比留間 孝司	（東京武蔵村山 RC）
委員	仲吉 サダ子	（宜野湾 RC）

ガバナー月信への再録にあたって

田中 一弘

2008 年のリーマンショック以降、企業に公共性・社会性を期待する声の世界で広がってきました。昨年からの新型コロナ危機で、それは一層強まっています。

企業が公益を第一とすべきことを、恐らく世界の誰よりも早く説いた実業家が、日本資本主義の父、渋沢栄一でしょう。彼の「道徳経済合一説」つまり「論語と算盤」のエッセンスは「公益第一、私利第二」にあると言えます。ここで大事なのは公益を優先すべきことを説くのと並んで、私利を軽んじてはいけないことも説いていることです。この考え方は、これからのグローバルな資本主義のあり方にも一石を投じるものと私は考えています。

2021 年の NHK 大河ドラマの主人公ということもあり、渋沢への関心は最近高まっていますが、ロータリークラブはそれ以前から渋沢の思想に着目されてきました。その証左が、ここに再録された 2014 年 5 月の講演録です。ロータリーの標語「Service Above Self」にも照らしつつお読みいただければ幸いです。

（一橋大学 大学院経営管理研究科 教授）



田中 一弘
（たなか かずひろ）

1966 年 東京都生まれ。1990 年 一橋大学商学部卒業。（株）日本興業銀行勤務を経て、99 年 一橋大学大学院商学研究科博士後期課程修了（博士〔商学〕）、神戸大学大学院経営学研究科助教授。2003 年 一橋大学大学院商学研究科助教授。10 年 同大学院教授。18 年 同大学院経営管理研究科教授（現職）。20 年 同大学院経営管理研究科長・商学部長（現職） 専門は経営哲学、企業統治。主な著書として『渋沢栄一と人づくり』（共編著）有斐閣（2013 年）、「『良心』から企業統治を考える」東洋経済新報社（2014 年）、『企業統治』（共著）中央経済社（2017 年）など。

渋沢栄一から読み解く 21世紀の経営者精神

田中 一弘

ロータリーの友 2014年10月号から再録

渋沢栄一（1840～1932）の「道徳経済合一説」とはどういうものなのでしょう。「論語と算盤」と言われたり「士魂商才」と言われたり「義理両全」と言われたりします。一言で言えば「道徳と経済は本質的に一致する」ということです。

「道徳」には、消極的道徳と積極的道徳があります。消極的道徳は「為すべからざることをするな」ということです。コンプライアンス（compliance 法令遵守）とか、企業倫理といったものを連想させます。積極的な道徳は「為すべきことをせよ」ということです。使命とか志とかに当たります。

「経済」という言葉にも二つの意味が渋沢の用語にはあって、一つは富とか利益、もう一つはそれを生み出す事業活動を指します。

こうした意味をとらえた上で、「道徳経済合一」なのですが、渋沢は『論語』を一番大事な愛読書にし、儒教を信奉していました。「道徳経済合一説」は、渋沢による独特の儒教解釈だと言われています。

普通は、道徳と経済は矛盾すると考えるのが常識です。その上で「矛盾はするが、その間に折り合いをつけて、バランスをとらなければいけない」と言われます。つまり、もうけようとあまり思いすぎると道徳が立たなくなるし、道徳、道徳と言っても、もうからなくなる。こちらの天秤とこちらの天秤に乗せ、お互いバランスをとりますよということなのです。

しかし渋沢は、道徳と経済は、本質的に一致すると言っています。道徳と経済とは紙の裏表、表裏一体だ、ということなのです。紙の表に道徳、裏に経済と書いてあり、紙ですから透けて見えます。道徳の側から見れば経済が透けて見え、経済の側から見れば道徳が透けて見えます。このように表裏一体だというのが、「道徳経済合一」です。

その表裏一体だという時に二つの見方があります。一つは道徳の側から経済を見ます。「道徳なくして経済なし」ということです。これを「道徳＝経済説」と、私は呼んでいます。もう一つは経済の側から見ます。「経済なくして道徳なし」です。こちらは「経済＝道徳説」です。この考え方に渋沢の独特のところがあ、ここが最もロータリアンと通じるところではないか、と思います。

「道徳なくして経済なし」というのは、消極的な道徳です。悪いことをしてはいけない、悪いことをしてしまうと、経

済が立ちゆかなくなるということです。渋沢の当時、商売に関わる消極的道徳を一般に「商業道徳」と呼んでいました。彼は商業道徳についてさまざまなことを説いていますが、^{せん}煎じ詰めれば、二つに尽きると私は思っています。一つは「不誠実に振る舞うべからず」。もう一方は「自己の利益を先にすべからず」。裏を返せば、誠実に振る舞え、他者の利益を先にせよ、ということです。

今のグローバルな資本主義の中で言われているのは、第一の「不誠実に振る舞うべからず」だけです。しかし、渋沢はそこでは満足しませんでした。「自分の利益を先にするな」という、もう一つの道徳を持ち出しました。

「不誠実に振る舞うな」について。「誠実さが事業活動の根本だ」「商人にとっては信用こそが根本だ」というのは、当たり前のことです。しかし、この当時は「商人と屏風^{びょうぶ}は曲がらねば立たぬ」「うそも元手の内」といったような、いろいろなことわざがあったほどです。それにもかかわらず渋沢は、うそなんかつかずに商売できると、明言しています。

渋沢は「不誠実に得た利益は永続しない」と言います。正直に商売することで、十分な利益を得ることができる。ここで大事なことは、「十分満足な」利益ということ。「十分な」とは何を意味しているのかというと、私が思いますにはステークホルダー（stakeholder 利害関係者）を満足させ、企業が存続・成長していくための再投資もきっちりできる、それだけの利益水準です。

「正しい道理の富でなければ、その富は完全に永続することはできない」「真正の利殖は仁義道徳に基づかなければ、決して永続するものではない」と渋沢は言っています。彼は利益の永続性というところに、重点を置いているのです。

もう一つの商業道徳が「自己の利益を先にするな」、つまり「他者の利益を先にせよ」ということです。皆が自己利益を第一にしたら、経済どころではなくなります。「こぞって先を争ってしまったら、結局は経済活動そのものが滞ってしまうのだ」と渋沢は言っています。そういう警告を発しているわけです。

こうやって商業道徳を守ることが、同時に商売ということも正当化する上に不可欠なのだということも「道徳＝経済説」にはあります。渋沢は「正道を踏んで得たる富貴（富とか地位）というものは、決して卑しめ捨てるべきものではない」「人は富を汚らしいもの、汚いものであると見ずに、正しい方法によってこれを得るように心がけなければなら

ない。富貴になれば道徳より遠ざかるという古人の考えは誠に間違っている」と痛烈に批判をしています。

為すべき事を為せ

次に「経済なくして道徳なし」、つまり“経済＝道徳説”のお話をしましょう。ここからがいよいよ洪沢の本領発揮というところですね。洪沢にとって「為すべきことを為せ」という積極的道徳の究極は何かというと、「博施濟衆」すなわち「広く民に施して衆を済う」ということです。この言葉は『論語』の中に出てくる言葉です。これを洪沢は、孔子が説いたいろいろな教えの中の、一番重要なことだと考えました。

「博施濟衆」は言い換えれば、公益の追求。これが洪沢の思想の核心であったと言っていいと思います。洪沢はこの思想に裏付けられて、多くの会社をつくり、公益事業にいそしんだと考えられます。

例えばそれを経済の、企業の観点から洪沢は「真正の国家の隆盛を望むならば、国を富ますということを努めなければならぬ。国を富ますは科学を進めて商工業の活動に依らねばならぬ」と言っています。これも今聞くと当たり前のことだと思いますが、江戸時代も明治の初期も民を豊かにする仕事は、お上の仕事だと考えられていたはずで、「博施濟衆」も、孔子は商人に向けて言ったわけではありません。国を治める立場の人に向けて言ったわけですね。

「今まではお上が民を豊かにするという役回りだと言われてきたが、これからは民間のわれわれがお互いに水平の関係の中で、みんなを豊かにしていく、富ましていくことをしなければいけないのだ」と考えたところに、洪沢の「新しさ」があります。

ただ、公益の追求が大事だ、博施濟衆が大事だ、と言っても、それに携わる人が何の利益も得られないということではいいでしょうか。「これだけ立派な活動をしているのだから、あなた、報酬などいらなんでしょう」というわけにはいきません。これがもう一段のところですね。

普通、われわれは道徳というと、清貧の徳などと言って、貧乏するのが道徳だというように思いがちですが、洪沢はそんなことは考えていません。一人ひとりが豊かになっていくこと、これが道徳の基本だと言っているのです。何も世の役には立たない、自分だけがもうかっている、そのような事業は非常にはかない、もろい事業だと言うのです。ここに「道徳経済合一」というものの芽があるわけですね。

「道徳なくして経済なし」と「経済なくして道徳なし」をもっと煮詰めてみた時、最後のエッセンスは何でしょうか。

洪沢の真意を理解するための鍵になるのが、これも『論語』の言葉ですが、「君子は義に喩り、小人は利に喩る」ということです。君子というのは、何が為すべきことかに敏感である。小人（取るに足らない人）は、何がもうかるかということに敏感だと。

ここで注目しなければならないのは、「義に喩る」ということです。今道友信（1922～2012）という哲学者が「義」という漢字について、次のように述べています。

「義」は、上に羊という字があって、下に我という字がある。昔、中国では羊や山羊を犠牲の獣として捧げました。「義」という字は、その羊を「我」が背負っていることを表しています。祭が大変重い意味を持っていた古代、羊を背負って犠牲の台に置くその人は、垂直方向と水平方向の二つの大きな責任を、負っていることになります。

垂直方向は天に対して、水平方向は自分たちの村とか、共同体に対してという意味です。その責任が「義」だというわけです。「義」は、一般的に justice と訳されることが多いですが、そうではなく、responsibility だと。responsibility が「義」の本当の意味だというのは、私もおそらくそうだろう、と思います。

洪沢は万事につけ「義」に喩ったわけですね。これも洪沢の言葉ですが、「余は何時でも事業に対する時には、これを利に喩らず、義に喩ることにしておる。まず道義上より起こすべき事業であるか盛んにすべき事業であるか否かを考え、利損は第二位において考えることに致しておる」。しかし、利のことを無視しているというわけではありません。どちらを先に見るか、という時に義の方を先に見る、ということですね。

一言で言えば「公益が第一、私利が第二」だということだと、私は思います。このフレーズ自体は、洪沢は使っていません。利損を第二にするということは言っていますが「公益が第一、私利が第二」というのは、私がこしらえたフレーズですね。

「公益第一、私利第二」で「見えざる手」を賛げる

21世紀に求められると私が考える「経営者精神」を一言で言うと、「公益第一、私利第二で見えざる手を賛げる」ということです。従来の市場経済の常識は、20世紀の終わりがごろから限界にきています。従来の常識とは何かというと、イギリスの経済学者であり思想家であるアダム・スミス（1723～90）の話を思い浮かべてください。一人ひとりがルールを守って、正義を守っている限り、つまり正しく商売をしている限りは、あとは、熱心に自己利益を追求するのがよいと考えました。個々の経済主体が、そうやって自己利益を追求していると、「見えざる手」が働いて、結果として経済や社会に秩序が生まれて、そして繁栄をしていく、というのです。

ところが、あるところまでいくと「見えざる手」が機能しなくなってきてしまいます。つまり、一人ひとりがいくら正しく熱心に営利を追求していても、それだけでは社会はうまくいかなくなってしまいます。これを経済学の言葉では「市場の失敗」と言います。

では、なぜこのような限界が出てきたのか。その根本原

因を探ってみると「消極的道德さえ守っていれば、あとは熱心に商売をしてもいい」ということがあると思います。これがこれまでの常識ですが、そこで抜けているものは「為すべきことをせよ」という「積極的道德」です。商売をする人たち、とりわけマーケットの世界の人たちにとっては、「使命感」のような積極的道德など必要がない、という人も少なくないでしょう。

でも、ここにこそ、「見えざる手」が働かなくなる原因があるのではないのでしょうか。

それではいけない、というので、企業の次元だけに限って見ればCSR (Corporate Social Responsibility 企業の社会的責任) が言われるようになってきました。CSRは、高度成長期にも一度議論が盛り上がりました。またこの10～20年ぐらいで、CSRは盛んに言われるようになってきました。

旧来型のCSRは、公益の偏重、私利の軽視という特徴を持つように私には思われます。「企業はもうけているのでしょ。もうけた利益を寄付しなさい。フィランソロピーに充てなさい。メセナをやりましょう」。これはある意味で、もうけたことへの罪滅ぼしです。こうした議論の歴史を振り返ると、その根底には「大企業がもうけるのはけしからん。利益を上げているのは何か悪いことをしてもうけているのだらう、もうけたものを社会に出せ」といった反企業的な考え方があったように思います。

それに対して、ここ10年ぐらいで出てきたのがCSV (Creating Shared Value 共通価値の創造) です。CSVはマイケル・ポーター (1947～) というハーバード・ビジネス・スクールの先生が言い出しました。要するに、企業は社会的課題 (貧困、環境問題など) に対処すると、同時にもうけることもできるのだ、ということです。

しかし、ここにもまた問題があります。CSVの目的、少なくともポーター教授が言っているCSVは、利益を上げるというのが究極の目的です。つまり究極の目的は私利にあります。その手段として公益を使おうとしています。「小人は利に喩る」方の話を、CSVは言っているように私には思えます。

従って、従来のCSRとCSVは両極端なのです。この両極端の中庸をいくのが「公益第一、私利第二」ではないか。これが私の考えていることです。「公益第一、私利第二」が「見えざる手」を助ける。もし「見えざる手」というものに意思があるとしたら、「見えざる手」も同じように公益の増進ということを考えて、社会や世の中がよくなるように、そのためにいろいろな助成をしているはず。「公益第一、私利第二」で仕事をしている人たちは、そうした「見えざる手」の意思と同じ意思、同じ方向を向いていることとなります。つまり「見えざる手」と、目的を共有しています。

私は「公益第一、私利第二」で仕事をしている商人を「君子の商人」と呼んでいます。「君子の商人」とは洪沢の言葉

でもあります。どちらかという、CSRの側とは近いような気がします。しかしCSRの側と決定的に違うのは、「君子の商人」は、私利も重視しているということです。人々が無欲恬淡では「見えざる手」は働きようがない。みんなが利益を得たいと思って頑張っているから、その結果「見えざる手」が働くのです。それなのに「利益を得るのはいいかがわしいことだ、卑しいことだ」と言ってしまったら、「見えざる手」の出る幕はなくなってしまうでしょう。

最後にもう一つ申し上げたいのは、「公益第一、私利第二」と順番をつけることの重要さです。第二を明示することで、本当の第一が強調されます。これは「宅急便」というサービスをつくった実業家の小倉昌男 (1924～2005) 氏の話に、私がヒントを得ました。小倉氏は宅急便を立ち上げる時に、「サービスが先、利益は後」を強調しました。

大和運輸 (現ヤマトホールディングス) の二代目だった小倉氏は、若いころ、地方のある運輸会社に出向しました。そこは交通事故や労災事故の多い会社でした。事故を何としても減らさねばならないということで、たまたま近くの木工会社の成功事例から学んだのが「第二を示すこと」の重要さでした。安全第一、安全第一と「第一」ばかり言っていると、結局、安全はないがしろにされてしまう。そこで小倉氏は「安全第一、営業第二」という標語を掲げました。営業が大事だ、ということは皆わかっているわけです。しかしその大事な営業よりも、さらに安全が第一だということ強調したのです。その結果、労災は着実に減っていき、しかも同時に、営業の方はむしろ活発になっていきました。

ここで小倉氏が言っているのは、「経営者というのは何でも第一、第一と言いたがる。しかし、第二がなくて第一ばかり言うのは、本当の第一がないということではないか。本当の第一をハッキリさせるためには、第二を明示しなければいけない」ということです。

結局、ただ「公益第一」「博施濟衆」と言っているだけでは、本当にそれが大事であるということがクローズアップされない。むしろ「公益第一、私利第二」と第二に私利を持ってくる。私利も大事なのだと言うことによって、公益の重要さが際立つということです。

まったく同じことはロータリーの第一標語「Service Above Self (超我の奉仕)」と言い換えても成り立つと思います。Service第一である、しかしAbove Selfということは、そこにしっかりとしたSelfがある。きっちり利益を上げて、幸せな生活をしている自分というものがある。その自分を実現できて、さらにその上にもっと大事なものとして、Serviceというものがある。

皆さんがすでに実践されているかもしれませんが、今日お話したような「道徳経済合一」というまた別な立場から、いままでとは違うレンズでご覧になって、何か感じていただけることがあれば、大変うれしく思います。

上半期 ガバナー補佐報告

(中央分区、北分区)

西岡 孝志 ガバナー補佐

(東京紀尾井町ロータリークラブ 所属)

担当クラブ 東京、東京神田、東京麹町、東京紀尾井町
東京お茶の水、東京丸の内

2021年1月7日に、新型コロナウイルスの感染拡大を受け東京都と埼玉、千葉、神奈川の1都3県への「緊急事態宣言」の再発令がされました。この「緊急事態宣言」の発令によつて各クラブで1月中は例会が中止とされるなど、クラブ運営に支障をきたしました。

2020～2021年度の前半を振り返ってみると、新型コロナウイルスによる影響でクラブ運営も混乱し翻弄させられました。ロータリー活動も縮小せざるを得ない状況が続き2020年11月9日開催を予定していた、中央分区インターシティーミーティング(IM)開催も種々検討しましたが、多くの会員が集まる形式の会合は避けた方が良いのではないかと多数意見でIMは開催中止にしました。

しかし、IMの中止を補うために新型コロナウイルスの影響によって孤立している社会的弱者と言われる人々や組織を対象に、ロータリークラブらしい奉仕活動を積極的に行うことこそ必要なことだと決議しました。

この中央分区の決定を各クラブの会長宛に文書で通知しました。その後、会長・幹事会でも「新型コロナ被害者に対する奉仕活動方法に関する意見交換」を行い、各クラブで次のような奉仕活動を実践し奉仕先から感謝されております。

代表的な奉仕活動は次のとおりです。

- ①新型コロナ被害関連の寄付先を選定し、1千万円の寄付をする。
- ②医療、福祉団体に対する医療防護服の提供をする。
- ③活動の大幅減少により、困窮している地元の音楽団体に対する寄付。
- ④コロナ禍で困窮している一人親家庭に、福島県産の食料(米)を支給する。
- ⑤コロナ禍で困窮している母子家庭の親子に対し、食品や果物を提供する。
- ⑥コロナ禍での、アルコールを伴う飲食のマナー見直しを啓発する為の動画作成。

等々です。

本多 良美 ガバナー補佐

(東京新都心ロータリークラブ 所属)

担当クラブ 東京西北、東京新宿、東京四谷
東京新都心、東京ワセダ

●東京西北ロータリークラブ

例会はリアル参加とオンライン参加を組み合わせたハイブリッド。奉仕活動はコロナ禍、十分な活動を行うことができません。昨年度後半より新規の活動としてNPO法人 Learning for All (子供たちに放課後の居場所を作り勉強を教える。東大卒の若い起業家、李さんが主催)、新宿区母子生活支援施設かしわヴィレッジとのぞみ荘(DV等で避難せざるを得ない母子家庭を支援する住居)への支援を開始。高齢会員の退会と新入会員の入会が数人ずつ、結果61名の会員数は現状維持。新入会員との交流のためサポートチームを立ち上げ、さらに退会以上の増強を心がけたい。今後、クラブの活動をコロナ禍でも社会に発信できるDXを検討していきたい。

●東京新宿ロータリークラブ

- ・期初より20回の例会(オンライン・ビデオ視聴可能)開催。
- ・毎年恒例の新宿区小・中学校俳句コンクールに3校より応募の1405句より各賞の選考が終了、年明けに賞品送付予定。
- ・区内小学校1年生に百日草の種を贈り、咲いた花の絵を募り、159点を約1か月、会員の手でハイアットリージェンシー東京に展示した。
- ・前期承認された地区補助金プロジェクトとして、気仙沼市図書館に震災関連図書を今春、寄贈する予定。今期は「ヒマラヤ小学校」(ネパール)への支援事業を地区に申請準備中。
- ・マイロータリーアカウント登録目標80%。IT担当中心に「マイロータリー登録推進プロジェクト」を立ち上げ、期首22%の登録率が現在54.79%となった。

●東京四谷ロータリークラブ

- ・例会 7月第1週、第2週はクラブ協議会を開催。以降10月末まで休会、11月より再開。12月の忘年家族会は休会、1月からは通常開催予定だったが再び休会。
- ・奉仕活動 青少年奉仕活動のみ、二葉乳児院、新宿子供食堂、3keysに対し金銭、物品の支援を定期的実施、12月には訪問しての活動を予定。
- ・親睦活動 11月28～29日親睦旅行を参加者13名で決行。コロナ感染者なし。
- ・今後の変革 例会不参加者へのケアとして、HPの充実を図る。理事会議事録の掲載、例会の動画配信、出席委員長のコラム掲載等。

●東京新都心ロータリークラブ

- ・前年度会長幹事感謝の会 例年は7月に行っていたが、今年度は10月に実施
- ・ガバナー公式訪問は7/31の予定を延期し、11/25に実施
- ・新入会員歓迎会予定を中止、下期に実施予定
- ・会員の秋の旅行会を中止
- ・地区親睦ゴルフ会予選通過、決勝大会準優勝
- ・クラブ内親睦ゴルフ会を中止
- ・ファイヤーサイドミーティング（炉端会議）は少人数にし、班分けを多くして実施
- ・年末のクリスマス家族会を会員のみ忘年会に変更するも12月になり中止
- また、
- ・オンライン併用の例会を実施、継続
- ・基本的に他クラブからのメイクアップ受け入れを中止
- ・会員増強の為のゲスト受け入れ「オープン例会」を中止をしている。

<下期の活動予定>

- ・計画にあるものは、実施する前提で予定をしている。
- また、委員会開催や理事会もコロナ禍の状況により Web での実施を検討。
- 会員増強はオープン例会を中心に行っていましたが、オープン例会に代わる会員増強の方策を検討中。
- My ロータリーの全員登録を完了する予定でいます。

●東京ワセダロータリークラブ

- ・例会は、密にならないスクール形式にて実施。試験的に円卓での開催を開始して会員からの意見を集約中。夜間例会（年末家族会）は、時期尚早ということで会員のみで昼に開催する。最近の活動は、下記の通り。
- ・8月～9月までコロナウイルス検査を行う国立国際医療センター病院の屋外施設スタッフに対して、先方の要望により「OS-1」を月10箱寄贈した。
- ・あけの星学園とステップアップ塾に対して、8月に外出できない学生のために食品を寄贈した。
- ・9月に例会会場のリーガロイヤルホテルに対し、ホテル応援キャンペーンとしてホテル商品券を10,000円単位で会員が購入した。
- ・グローバル補助金を活用したミャンマー・ヤンゴンセントラルロータリークラブとの合同プロジェクトの医療機器寄贈を完了した。

以上、12月に各クラブより上半期の報告をしてもらいました。各クラブとも、コロナ禍の中、ご苦労をされながらクラブを運営されています。また、今年に入り、緊急事態宣言も発令され、1月22日に予定しておりました東京新宿ろーたリークラブのガバナー公式訪問は中止。各クラブとも通常形式

での例会開催は厳しい状況となっております。

加藤 幸男 ガバナー補佐

（東京練馬西ロータリークラブ 所属）
担当クラブ 東京城北、東京セントラルパーク
東京練馬西、東京練馬中央、東京御苑

現在、コロナの感染拡大の脅威に曝されている社会において各クラブは、会員による様々な取り組みでコロナ禍を乗り越えようとしているところと言えるでしょう。具体的なクラブ名を挙げての取り組みについては、割愛させていただきますが、zoom 併用型の「ハイブリット例会」や、要請があった場合にリモート参加を認めるクラブもあります。原則的に例会を開催する理由として、委員会を含めたミーティングが欠かせない事を挙げていました。

人と人とが接触することを拒むこのコロナ禍においては、奉仕プロジェクトの延期を余儀なくされたクラブもあります。また、会員と家族のみに絞った家族親睦忘年会も普段の様子とは変わり、若い家族を持つ会員家族の出席は少なかった様です。

個人的に思うことですが、ロータリークラブに限らず、「今必要とされているものは何か？」この問いに答えられる事が我々に課せられている課題なのか、問われている様に感じます。

栃木 一夫 ガバナー補佐

（東京北ロータリークラブ 所属）
担当クラブ 東京北、東京小石川、東京上野
東京本郷、東京後楽

主な活動結果

- ガバナー公式訪問は7月20日東京上野・8月18日東京北・9月9日東京本郷・9月11日 東京小石川、東京後楽合同で当初の予定通りの日程で行う事が出来ました。
- 9月18日 第1回 北分区分会長幹事会（ホテルメトロポリタン池袋）
- 10月16日 東京小石川 植林事業に参加。
- 11月19日 担当クラブ会長幹事会（帝国ホテル）
- 12月15日 東京北RC創立70周年記念例会。

全般として新型コロナウイルス禍により、各クラブ感染拡大予防処置の中での活動の為、例会時間の短縮やビジター訪問不可、あるいは密回避不可の為等各クラブ共に、当初予定していました活動が思うようにできませんでした。

そんな中で開催された東京北RC創立70周年記念例会も当初予定より大幅に縮小して、会員のみ及びご来賓は野生司ガバナーご夫妻、谷一地区幹事、RIJYEM 理事長 鈴木孝雄パス

トガバナー、そして RIJYEM の役員と人数を絞って開催されました。トピックとしては記念式典の中で『東京北 Exchange ローターリー衛星クラブ』の認証伝達式が行われた事です。

おそらく、ROTEX（青少年交換学友）のみが会員のロータリークラブは世界初だろうとの事で、国際ロータリー会長、ホルガー・クナーク様よりお祝いとともに『クラブを設立しただけでは十分ではなくクラブとして具体的に何をやっていくのが重要』との趣旨のビデオメッツセージがありました。

11名の会員は、ロータリーへの恩返し、社会貢献、自己成長、人脈構築を目的に奉仕の理想に向かい全力を尽くすと力強く宣言していました。

1月以降後半は、北分区のロータリーデーを1月23日に予定しています。また東京本郷創立30周年、前年度より延期になりました東京小石川の創立50周年が控えています。さらに東京上野は、奏楽堂のコンサート、東京後楽では耳の聞こえない方々への特殊な音楽会等の計画があり、先行きがわからないコロナ禍の中で、少しでも多くのロータリー活動が予定通り、つつがなく行われる事を願ってやみません。

加古 博昭 ガバナー補佐

(東京池袋ロータリークラブ 所属)

担当クラブ 東京池袋、東京板橋、東京池袋西
東京豊島東、東京板橋セントラル

私が担当している北分区各クラブは、新型コロナウイルス感染拡大に伴い東京池袋を除いて3月より休会（東京池袋は4月より）しておりましたが、6月の最終例会から再開しましたが、その後緊急事態宣言の再発出により、多くのクラブが休会となりました。

各クラブが感染防止に腐心し、例会の運営においてはロータリーソングの取りやめ、例会の席配置をスクール形式に変更するなど工夫がなされておりました。また感染拡大のため多くのイベントも中止となり、毎年続いてきた奉仕活動も中止せざるを得ないクラブも多くあり親睦と奉仕の両面で困難な時期でした。

野生司義光ガバナー公式訪問は、7月13日の東京池袋西を皮切りに7月16日東京池袋、7月28日東京板橋、東京板橋セントラル合同例会、そして9月30日東京豊島東で担当する公式訪問を予定通り終えることができました。これもひとえに各クラブのご協力のおかげであり感謝申し上げます。

コロナウイルス感染の第3波が猛威をふるい終息がいつになるのかも見通せないなかではクラブ運営にも大きな制約があります。ローターアクトクラブや東京池袋 NEXT ローターリー衛星クラブの例会では、オンライン形式や対面とオンラインのハイブリッド形式を採用して運営しております。

ロータリークラブにおいてはオンラインやハイブリッドは

難しい面がありますが、パンデミックで世の中が大きく変わったのは歴史が示しております。ロータリーの活動も変えないもの、大きく変えるものを仕訳する時期に来ているのかも知れません。

鈴木 憲興 ガバナー補佐

(東京王子ロータリークラブ 所属)

担当クラブ 東京王子、東京浅草、東京荒川
東京浅草中央、東京リバーサイド

ガバナー公式訪問に随行して

7月15日水曜日の東京浅草中央ロータリークラブ（以下 RC と略します）から始まり、8月3日月曜日に東京浅草 RC、10月14日水曜日東京王子 RC、11月10日火曜日東京荒川 RC、東京リバーサイド RC 合同例会のガバナー公式訪問で担当5クラブが無事終了しました。

野生司ガバナーそして同行いただいた中川地区副幹事、小澤分区幹事、各クラブの会長、幹事の皆様のご協力にお礼申し上げます。

今年度の前半は各クラブともコロナショックに対応するため種々の活動計画の変更や慣例の見直しによる対応といった事例が多々ありました。特に目立ったのは、例会を中止せざるを得ないことや、例会場が閉鎖される事案が発生したことでした。前例のないことに対応する方策を模索する各クラブ役員の皆様にご苦労様と申し上げます。

新型コロナの感染拡大中、感染予防のために、各クラブは例会を通常と異なる会合形式で行っていましたが、共通する対策を箇条書きにすると、

1. ソーシャルディスタンスを保つ。
2. 出席者のマスク着用。
3. 消毒液など除菌グッズの準備。
4. 参加者の検温。
5. 歌を中止。
6. 握手の習慣を中止。
7. 食事を中止。
8. 外部卓話者をクラブメンバーに変更。
9. 余剰となった例会開催費の活用方法。
10. オンラインとのハイブリッド例会の開催。

この他にも数多くの対応策が見られましたが、今回の新型コロナの影響による社会構造変化について行ける組織のあり方と、クラブのあり方を考えるきっかけとなれば、と思いました。

2021年は、新型コロナウイルスと共存しながらクラブの活性化や、新しい生活様式に見合う改革を進めなければなりません。一日でも早く感染状況が落ち着くことを願って、良い一年となることを期待したいと思います。



北分区ロータリーデー 献血活動 池袋東口駅前で開催

去る1月23日土曜日、冷たい雨の降る中池袋駅東口駅前以北分区15クラブによるロータリーデー、献血活動が行われました。

当日は野生司ガバナー、嶋村ガバナーノミニ、鈴木孝雄バスターガバナーはじめ多くの地区役員の方々、多くのロータリアン、ローターアクターも街頭での広報活動にあたり、朝10時から16時までの活動予定時間中に54名の方の献血へのご協力をいただきました。

コロナ禍で企業や学校での集団献血がほとんど行われなくなって血液のストックが少なくなっている中、採血にあたった東京都赤十字血液センターからも大いに感謝された、とのことでした。当日ご協力いただいた方々に感謝申し上げます。

ご厚意に対し、深く感謝申し上げます

マルチプル・ポール・ハリス・フェロー

4回 林 一好 (東京本郷)

米山功労者・メジャードナー

11回 細谷 彬 (東京麹町)

10回 荒川 和幸 (東京麹町) 吉田 敏男 (東京王子)

米山功労者・マルチプル

9回 内田 昌之 (東京練馬西)

6回 林 一好 (東京本郷)

5回 荻原 年 (東京神田) 小島 清治 (東京紀尾井町)

小峰 博昭 (東京青梅)

4回 渡邊 俊一 (東京紀尾井町) 高田 秀寿 (東京荒川)

鈴木 康友 (東京葛飾)

3回 浅賀 一樹 (東京お茶の水) 石川 幸男 (東京荒川)

高橋 和雄 (東京荒川)

2回 多田 幸雄 (東京) 佐原 且朗 (東京新都心)

大瀧 一喜 (東京新都心) 深尾 一郎 (東京紀尾井町)

徳岡 光洋 (東京荒川) 中澤 信夫 (東京上野)

若林 和男 (東京東大和) 金野 眞一 (東京東大和)

米山功労者

石川 悦久 (東京) 落合 宙一 (東京新宿)

宮屋敷 建 (東京板橋) 吉川 裕 (東京荒川)

大森 一光 (東京荒川) 上野 広信 (東京上野)

向井 史郎 (東京上野)

2020年12月31日分まで 敬称略 順不同



会員数報告

2020年7月1日 クラブ数 70 RC

2020年7月1日 会員数 2,868 名

(内女性) 204 名

2020年12月末 クラブ数 70 RC

2020年12月末 会員数 2,921 名

(内女性) 216 名

2020-21 年度入会者 153 名

2020-21 年度退会者 100 名

2020-21 年度会員増減数 53 名